

いつも一緒
富山のペットたち

自分の体の一部をなめたり、かんだりすることによって傷をつけることを「自傷行動」と言います。



柴犬などの日本犬が、急にくるんくるんと回って自分のしっぽを追い掛ける。こんな光景を見た人もいらっしゃるでしょう。他の種類の犬も、前足の手首を一心不乱になめることがあります。

このような行動を見つけた時、「犬の癖だからしょうがない」と考えていませんか。飼い主さんがどんなにやめさせようとしてもなめ続けたり、かんだりすると、手術しなければ治せないほど大変な傷になる危険があります。

皮膚にダメージ
自傷行動の原因の一つが、ノミなどの外部寄生虫やアレルギーによる激しいかゆみです。動物はなめて自分で治していると思う人もいますが、それは間違いです。結果的に皮膚に大きなダメージを残してしまいます。

犬の自傷行動

いわき動物クリニック院長 (滑川市柴)

岩城 孝太郎



自分の体をなめないように、「エリサベスカラー」を付けたチワワ

体なめ続けたら要注意

皮膚に付いている常在菌の代表であるブドウ球菌が、悪化の一番の原因になります。このような細菌による皮膚病は膿皮症と呼ばれ、代表的なものに、1日たっただけで急激に皮膚炎の範囲が広がる急性湿性皮膚炎(別名ホットスポット)があります。

と言われる精神的なストレスが挙げられます。人がストレス状態にある時に貧乏揺すりをしたり爪をかんだりするのと同じで、犬は自分の体をなめ続け、傷つけてもやめようとしません。

原因を探ろう
なめなくなったからとカラ―を外すと、すぐに元の状態に戻ることが多いようです。根本的な原因が解決しなければ、自傷行動は解決しません。大切な

と、飼い主さんと良い関係を保つことができません。その結果、環境の変化に対応できなくなってしまうのです。
原因が何であろうと、犬が体をなめたり、かんだりしているときは、決して様子見で済ませるべきではありません。できるだけ早

治療には適切な抗生物質や、かゆみなどの炎症を抑える薬を使います。自分のしっぽを追い掛けて自傷行動に及ぶ原因には、心因性

引くときは、抗うつ剤や鎮静剤を用います。そこまでひどくない場合は、傷の治療と同時に、「エリサベスカラー」を首に装着させます。ホックで着脱できるプラスチック製の、自分の体をなめたり、かんだりできないようにするためのものです。

のは、何が自傷行動を引き起こし、症状を悪化させているのかを家族の皆さんが考えることです。

く、動物病院で診察を受けることをお薦めします。
「いつも一緒 富山のペットたち」は、毎月第一木曜日に掲載します。



2011(平成23)年 10月6日
北日本新聞